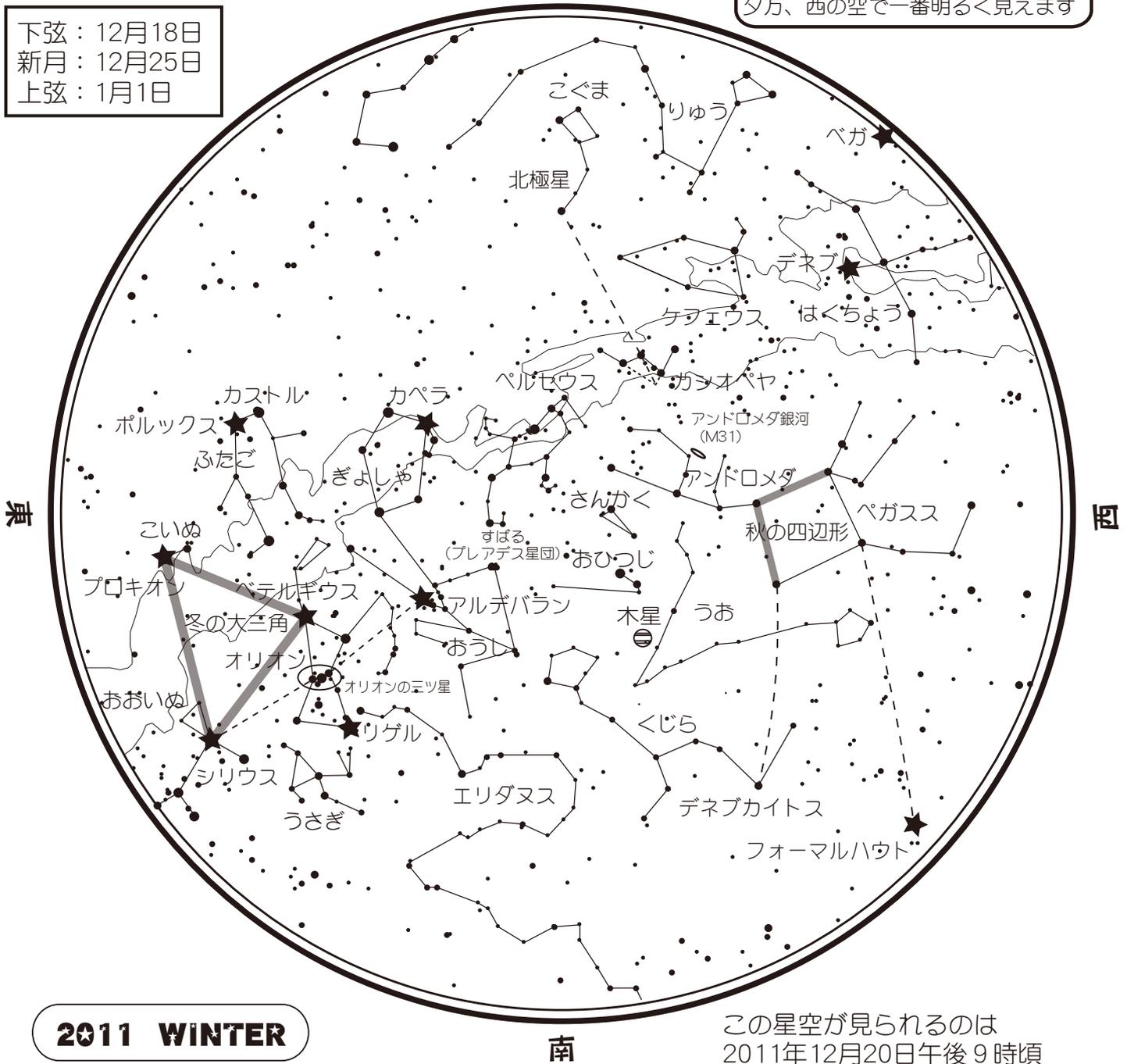


# ★ 姫路で見る12月後半の星空 ★

図の中心が頭の真上(天頂)、まわりの円が地平線です。  
この星図を見るときには見ている方向の方位を下にして下さい。  
★は一等星を表しています。  
月はかいていません。

☆木星☆  
夜の8~9時ごろ天頂(頭の上)付近で、一等星よりも明るく見えます。  
☆金星☆  
夕方、西の空で一番明るく見えます

下弦：12月18日  
新月：12月25日  
上弦：1月1日



**2011 WINTER**

この星空が見られるのは  
2011年12月20日午後9時頃  
2012年1月5日午後8時頃です。

12月も後半に入ると、星空では冬の星座が出そろいます。

東の空には、砂時計のような形の星の並びをした、オリオン座が見えます。真ん中にある3つの星の並びは、オリオンの三ツ星と呼ばれ、3つの星を線でつないで天頂へと伸ばしていくと、おうし座の一等星アルデバランを見つけることができます。おうし座の肩の部分には、青い星が集まってできた美しい散開星団「すばる(プレアデス星団)」が輝きます。

一方、オリオンの三ツ星を地平線へと伸ばしていくと、全天で最も明るい一等星シリウスが見つかります。おおいぬ座のシリウス、オリオン座のベテルギウス、こいぬ座のプロキオンを結び「冬の大三角」ができあがります。一等星カペラが目じるしのぎょしゃ座や、2つの星が仲良く並んだふたご座など、他の星座たちも、明るい一等星を目じるしに探してみましょう。

東の空の華やかさとは対照的に、西の空には秋の星座たちがひっそりと輝きます。「秋の四辺形」はペガサス座の体の部分で、そこからアンドロメダ座やくじら座を見つけることができます。

風邪を引かないように暖かい服装をして、今年最後の星空めぐりを楽しんでみてくださいね。